

第 78 回日本医学会定例評議員会

平成 23 年 2 月 23 日 (水), 日本医師会館小講堂

午後 3 時開会

議長(高久史磨日本医学会長) 時間になりましたので、第 78 回日本医学会定例評議員会を開催いたします。ご多忙のところお集まりいただきまして、ありがとうございます。ご出席の方の総数が現在 76 名、本日の評議員会の定数は 108 名で半数以上の出席になっていますので、この評議員会は成立しています。

日本医師会会長挨拶

議長(高久日本医学会長) 最初に日本医師会長のご挨拶となっています。副会長の横倉義武先生からご挨拶をよろしく願います。

横倉日本医師会副会長 ご紹介をいただきました日本医師会副会長の横倉と申します。本来であれば原中会長がご挨拶するべきですが、ちょうど医道審議会がありまして、そちらに出席をしています。本日もだいたい多数の方の審議をしなければいけないということで、間に合うように帰ってこれればと思っていましたが、そういうことで会長の挨拶を代読させていただきます。

「わが国の医療は長年続いた医療費抑制政策によりさまざまな問題が発生し、医療の崩壊が地域から起こり、危機にさらされています。そのようななかで、私たち医師は医道倫理と学術に基づいた医療を行うとともに、英知を結集してわが国にふさわしい医療制度を再構築し、国民医療を守らなければなりません。

そのためにも日本医師会は日本医学会と共に手を携え、すべての医師の結束の下に行動をしなければならぬと考えております。本日お集まりの先生方におかれましても、ご理解と格段のご協力

をお願い申し上げます。

また、本年 4 月に第 28 回日本医学会総会が開催されます。『いのちと地球の未来をひらく医学・医療—理解・信頼そして発展—』をメインテーマとされています。私たち医師が最新の医学・医療を体験し、研修する機会であることはもちろんですが、医療崩壊が引き起こされている今、日本医学会総会は医療の現場について、国民の皆様十分に理解していただくとともに、医療への信頼を取り戻し、そして発展につなげていく絶好の機会でもあると考えます。そのためにも医療関係者をはじめ、ひとりでも多くの方々の参加を得て、医学会総会を成功させる必要があります。

日本医師会といたしましても各都道府県医師会、また郡市区医師会と共に、会員の登録推進に取り組んでいるところです。開催まで残すところ 1 か月余りとなりましたが、日本医学会と共に協力・連携を図りながら、総会の成功に向けて鋭意取り組んでまいり所存でありますので、どうぞよろしく願います。」

以上です。ありがとうございます。

議長(高久日本医学会長) どうもありがとうございました。

■議事録署名人指名

議長(高久日本医学会長) それでは議事録署名人をお願いしたいと思います。私のほうの案としては、基礎・社会医学系として日本衛生学会の佐藤 洋先生、臨床医学系として日本内科学会の富野康日己先生のお 2 人に議事録署名人をお願いしたいと思います。ご異議ないでしょうか。

それではよろしく願います。

第 78 回日本医学会定例評議員会出席者名簿

日本医史学会	酒井 シヅ	日本交通医学会	花岡 一雄	日本生殖医学会	苛原 稔
日本解剖学会	河田 光博	日本体力医学会	吉岡 利忠	日本救急医学会	(連)堀 進悟
日本生理学会	加藤 総夫	日本産業衛生学会	(連)柳澤 裕之	日本心身医学会	野村 忍
日本生化学会	岡山 博人	日本気管食道科学会	久 育男	日本医療・	
日本薬理学会	(連)中谷 晴昭	日本アレルギー学会	(連)足立 満	病院管理学会	石川 澄
日本病理学会	青笹 克之	日本化学療法学会	松本 哲朗	日本消化器内視鏡学会	上西 紀夫
日本癌学会	野田 哲生	日本ウイルス学会	(代)俣野 哲朗	日本癌治療学会	幕内 博康
日本血液学会	(連)三谷 絹子	日本麻酔科学会	(連)山田 芳嗣	日本移植学会	寺岡 慧
日本細菌学会	(欠)	日本胸部外科学会	田林 暁一	日本職業・	
日本寄生虫学会	太田 伸生	日本脳神経外科学会	寺本 明	災害医学会	(連)調所 廣之
日本法医学会	中園 一郎	日本輸血・		日本心臓血管外科学会	高本 眞一
日本衛生学会	佐藤 洋	細胞治療学会	高橋 孝喜	日本リンパ網内系学会	内藤 眞
日本民族衛生学会	丸井 英二	日本医真菌学会	渡辺 晋一	日本自律神経学会	(欠)
日本栄養・食糧学会	橋詰 直孝	日本農村医学会	(連)別所 隆	日本大腸肛門病学会	望月 英隆
日本温泉気候		日本糖尿病学会	(代)春日 雅人	日本超音波医学会	千田 彰一
物理医学会	猪熊 茂子	日本矯正医学会	(欠)	日本動脈硬化学会	下門顕太郎
日本内分泌学会	森 昌朋	日本神経学会	(欠)	日本東洋医学会	(欠)
日本内科学会	富野康日己	日本老年医学会	(連)大庭 建三	日本小児神経学会	大澤真木子
日本小児科学会	五十嵐 隆	日本人類遺伝学会	稲澤 讓治	日本呼吸器外科学会	近藤 丘
日本感染症学会	岩本 愛吉	日本リハビリテーション		日本医学教育学会	(連)福島 統
日本結核病学会	(欠)	医学会	里宇 明元	日本医療情報学会	大江 和彦
日本消化器病学会	菅野健太郎	日本呼吸器学会	(代)巽 浩一郎	日本疫学会	児玉 和紀
日本循環器学会	島田 和幸	日本腎臓学会	(連)草野 英二	日本集中治療医学会	(欠)
日本精神神経学会	(欠)	日本リウマチ学会	(欠)	日本平滑筋学会	(代)中田 浩二
日本外科学会	國土 典宏	日本生体医工学会	田村 俊世	日本臨床薬理学会	景山 茂
日本整形外科学会	(連)三浪 明男	日本先天異常学会	塩田 浩平	日本神経病理学会	(連)秋山 治彦
日本産科婦人科学会	吉村 泰典	日本肝臓学会	小池 和彦	日本脳卒中学会	小川 彰
日本眼科学会	根木 昭	日本形成外科学会	(連)平林 慎一	日本高血圧学会	島本 和明
日本耳鼻咽喉科学会	小川 郁	日本熱帯医学会	狩野 繁之	日本臨床細胞学会	(欠)
日本皮膚科学会	飯塚 一	日本小児外科学会	岩中 督	日本透析医学会	秋澤 忠男
日本泌尿器科学会	(連)本間 之夫	日本脈管学会	(代)重松 邦広	日本内視鏡外科学会	(代)渡邊 昌彦
日本口腔科学会	高戸 毅	日本周産期・		日本乳癌学会	池田 正
日本医学放射線学会	中村 仁信	新生児医学会	名取 道也	日本肥満学会	宮崎 滋
日本保険医学会	白水 知仁	日本人工臓器学会	富永 隆治	日本血栓止血学会	後藤 信哉
日本医療機器学会	大久保 憲	日本免疫学会	(欠)	日本血管外科学会	古森 公浩
日本ハンセン病学会	後藤 正道	日本消化器外科学会	杉原 健一	日本レーザー医学会	古川 欣也
日本公衆衛生学会	小林 廉毅	日本臨床検査医学会	宮澤 幸久	日本臨床腫瘍学会	大江裕一郎
日本衛生動物学会	松岡 裕之	日本核医学会	伊藤 健吾	日本呼吸器内視鏡学会	大森 一光

(連)：連絡委員 (代)：代理出席 (欠)：欠席

役員 高久会長 岸本・久道・門田各副会長

(幹事) 池田, 今井, 吉本, 奥村, 八木, 齋藤, 中尾, 北村, 名和田, 成宮, 實成, 幕内, 岡井, 里見, 寺本
(欠席 清水, 金澤)

総会 (第 28 回) 矢崎会頭, 小川副会頭, 鈴木副会頭, 永井準備委員長, 山崎幹事長,
(オブザーバー) 事務局 藤

日医 横倉副会長, 高杉常任理事

■次第（議事概要）説明

議長(高久日本医学会長) 次に、本日の議事の概要ですが、報告事項が2つあります。まず、第28回日本医学会総会の準備状況を矢崎義雄会頭からお話しいただきます。次に、平成22年度の年次報告を私から説明いたします。

協議事項といたしましては、平成23年度の事業計画は私から説明いたします。次に平成22年度日本医学会加盟学会に関しましては、久道 茂副会長からご説明いただきます。「日本医学会 医学研究のCOIマネージメントに関するガイドライン」の件は、私から説明いたします。その他の議事に関しましても、一応私のほうから説明をいたしますのでよろしく願いいたします。

■第28回日本医学会総会準備状況報告

議長(高久日本医学会長) では、最初に報告事項として、第28回日本医学会総会準備状況について矢崎先生、よろしく願います。

矢崎第28回日本医学会総会会頭 ただ今ご紹介にあずかりました矢崎でございます。

今、日本医師会の横倉副会長からお話がありましたように、第28回日本医学会総会が4月2日から開催されます。学術集会は8日、9日、10日の3日間です。新しい医学・医療の進歩はひとりひとりの人の命を救うとともに地球全体を支えるということで、これをテーマとさせていただきます。また、ご案内のように、医学の研究あるいは医療の現場ではいろいろな課題が出てきていますが、これはやはり皆さんのご理解、特に一般市民の方々に理解を得ないといけないということで、理解・信頼そして発展という3つのキーワードをサブテーマに取り上げました。

学術講演の案内は冊子があります。今回は分科会から複数のテーマをいただき、トータルで470余のテーマを総合的な視点から270のセッションにまとめさせていただきました。ご覧になると分かりますように、基礎から臨床まであらゆる領域の医学・医療の状況を俯瞰できる総会になっています。

2日から開かれる博覧会は、従来は出展企業がそれぞれ個別に展示を行っていましたが、今回はテーマ展示で、あとで永井良三準備委員長からお話があるようなストーリー性をもった博覧会ということで、多くの市民の方に医学・医療の現場を理解いただくように、今、企画しているところです。

本日は副会頭の小川秀興先生、鈴木聰男先生にご列席いただきましたが、副会頭の開原成允先生は1月12日に急逝されました。心からお悔やみ申し上げたいと思います。

それでは、永井準備委員長からご報告をお願いいたします。

永井第28回日本医学会総会準備委員長 準備委員長を仰せつかっています東京大学の永井でございます。お手元にたくさんの資料が配付されていると思いますが、ざっとお目通しいただき、今回の総会の特徴をご理解いただければと思います。この医学会総会は各分科会からの積み上げで成り立っています。したがって、それぞれのプログラムもこちらから投げかけたり、あるいは各分科会からご提案いただいたり、修正いただいたり、あるいは協賛していただいたりということで、先生方のお手元にそれぞれの分科会が関与しているセッションにつきましてのリストがあります。お目通しいただき、こういう形で各学会が協力・参加されているということをご認識いただければと思います。

この総会では、従来どおり開会講演、閉会講演、日本医師会長講演という主な3つの講演がありますし、特別講演が19あります。全体の構成としましては、一般的な講演もありますが、学術講演の記念企画、これは国民皆保険制度が50周年になりますので、これを記念シンポジウムで取り上げている。あるいは特別企画といたしまして「医療を語る」、「医学を語る」、「臨床実習の現場と課題」、さらに「—みんなで考える新しい医療—」ということで市民公開シンポジウムをメディアの方からご提案をいただいて構成しています。

そのほか、ビッグサイトで博覧会があります。非常に大規模なもので30万人、ひょっとしたら

40万人以上の市民の方が来られると思いますが、医学博覧会 EXPO2011「わが国医学、つくろう！健康」ということで大江和彦展示委員長に担当していただいています。ほかにも学術展示でありますとか、それからもう1つ今回の特徴は、上野の国立科学博物館における2月11日からの医学教育史展で、先生方のお手元にチラシが入っているかと思えます。「歴史でみる・日本の医師のつくり方」、これは日本の医学史を非常にコンパクトにポイントを押さえて、順天堂大学の酒井シヅ先生、また日本医史学会のご協力で構成したものであります。ぜひこういうところにも足を運んでいただければと思います。また丸の内界隈では会期中にサテライト展示ということで、いろいろ医学会総会のご案内をする予定であります。

さらにもう1つ、順天堂大学の富野康日己記録委員長にお願いしました記念新書があります。「医の未来」というタイトルで定価800円ちょっとだったと思いますが、これからの医学・医療のあり方について論じた非常に良い新書で、一般向けであり、かつ専門の方々にも参考になるようなものが、岩波新書として3月の中旬に発行予定であります。こういうところもぜひお目通しいただければと思います。

今、準備が大体順調に進んでいますが、まだ登録数が予定に達しておりません。1つお願いしたいのは、先生方は分科会の代表ですので、まず先生方ご自身をご登録いただきたいということと、もし可能であれば、ひな形を送らせていただいていますので、学会のメール等で「皆さん、日本医学会総会にまいりましょう」ということをお伝えいただければと存じます。その2点をお願いしたいと思います。

以上です。

議長(高久日本医学会長) ありがとうございます。では登録をよろしく願いいたします。

2010(平成22)年度日本医学会年次報告

議長(高久日本医学会長) 次に平成22年度の年次報告ですが、お手元の書面に従いまして22年度の年次報告をいたします。

最初が「第28回日本医学会総会の準備」で、今、矢崎先生、永井先生からご説明がありました。

2ページ目は「日本医学会幹事会」となっていますが、先ほど幹事会を開催いたしました。主にこの評議員会で議論することについて幹事会で話をしたということです。

次の3ページ目に「日本医学会シンポジウム」とあります。日本医学会シンポジウムは従来から行っていて、主に医療関係者を対象にして、薬学の方なども来られますが、昨年7月と12月に「骨粗鬆症の診断と治療」「心筋梗塞」をテーマにシンポジウムを開催いたしました。

次に4ページ目の「日本医学会シンポジウム記録(DVD)」。日本医学会のシンポジウムをDVDとして記録に残して、ご希望の方にはお分けしています。当然演者のご了解を得て、差し支えない範囲でDVDに残しています。

次の5ページ、「日本医学会公開フォーラム」。日本医学会シンポジウムは医療関係者を対象にしたものですが、公開フォーラムは一般の方に医学・医療の現状を知っていただきたいということで、6年前から始めています。最初はがんのシリーズ、今はメタボリックシンドロームをテーマにしています。脳卒中、糖尿病というような一般的な病気をテーマにして一般の方に参加をしていただいています。ドクターにも多数ご参加いただいています。この医学会の公開フォーラムもやはりDVDの形で残しています。

次に7ページの「日本医学会医学用語管理委員会」と「日本医学会分科会用語委員会」の2つは関係がありますのでまとめてお話しいたします。日本医学会の用語管理委員会は、先ほど矢崎先生からもお話がありましたように、委員長の開原先生が急死され、その後任として副委員長の脊山先生に委員長をお代わりいただいています。

この用語管理委員会が中心になり、英和辞典の第3版を作りました。その第3版は書籍の形とWebの形とで作成し、書籍のほうは南山堂から発売をしていましたが、全部売り切れた時点ですべてWeb版だけにいたしました。同時に日本医学会の会員、日本医師会の会員はこれに自由にご覧にな

れる形態を取りました。また各分科会の用語委員会の方々と密接に連絡を取りながら、Web版の内容を継続して常に新しいものにしていきます。

また、用語管理委員会では、今後、和英の辞典も作る予定です。これはすべてWeb版の形で作ることを決めています。

次に7ページの「日本医師会医学賞・医学研究助成費選考委員会」です。日本医師会医学賞は日本医学会が選考をしまして、8ページの上にありますように平成22年度は京都大学の山中伸弥教授、東京大学の辻省次教授、大阪大学の森正樹教授の3人が受賞されています。

研究助成に関しましては15名の方が選考されています。お名前、お仕事が8~9ページに書かれていますのでご覧になってください。

次に「日本医学会加盟検討委員会」に関しましては、本日のこのあとの協議事項のなかで議論をされますので、そのときに主に久道副会長からご説明があると思います。

10ページ、「日本医学会あり方委員会」は、10月29日に開催しています。分科会の新規加盟のあり方などについて議論をいたしました。

11番目、10ページ下の「日本医学会臨床部会運営委員会」。この委員会は10学会の基本領域学会と subspecialty の2学会によって構成されてまして、随時、いろいろな問題を討議させていただいています。平成22年度は第8回の臨床部会運営委員会を5月14日に開催し、このときには日本医学放射線学会から「遠隔画像診断に関する件」ということで、遠隔画像診断を中国に下請けに出しているという問題が提起されました。日本医学放射線学会がさらに検討を行われるようですので、この問題について日本医学会は、その結果を聞いたうえで、場合によっては共同声明のような形でこの動きに対する warning を出すことを考えています。

次の第9回臨床部会運営委員会は7月23日に開催してまして、このときには専門医制の問題や利益相反などが議論されました。特に利益相反については、あとで協議事項のなかでご説明したいと思います。

次に8月19日に、臨時臨床部会運営委員会を開き、このときに問題になりましたのはホメオパシーについてでした。ちょうど8月24日に日本学術会議からホメオパシーの治療効果を否定する談話が発表されましたので、翌日の25日に私、日本医学会長と、原中日本医師会長とで合同の記者会見を行い、日本学術会議の談話に全面的に賛同することを表明いたしました。この資料は日本医学会のホームページの「お知らせ」欄に掲載していますのでご覧いただければと思います。

また、昨年10月20日に日本動脈硬化学会副理事長の寺本民生先生と私、原中日本医師会長とで、日本脂質栄養学会が発表した「長寿のためのコレステロールガイドライン2010年版」に対し、日本動脈硬化学会が発表した『長寿のためのコレステロールガイドライン2010年版』に関する声明』を、日本医学会ならびに日本医師会としては「日本動脈硬化学会の声明を支持する」ということも記者会見で述べました。このこともホームページに載っています。

次に、昨年10月29日に「事実を歪曲した朝日新聞がんペプチドワクチン療法報道」に関しまして、日本癌学会ならびに日本がん免疫学会の抗議声明を支持することを表明いたしました。これにつきましてもホームページに載せていますが、臨床部会運営委員会の委員の方々と委員会を開く時間的余裕がありませんでしたので、メールなどでご了解を得て、日本医学会の声明として朝日新聞のがんペプチドワクチン療法に関する報道が誤りであるということを示明いたしました。

第10回の臨床部会運営委員会は今年の1月21日に開催いたしまして、「日本医学会 医学研究のCOIマネジメントに関するガイドライン(案)」について意見を交換しました。このことにつきましても協議事項でまたお話ししたいと思います。

「日本医学会臨床部会運営委員会専門医制に関する委員会」は1回、日本専門医制評価・認定機構と合同の形で開催いたしましたが、この件につきましてもあとで門田守人副会長からお話があります。

13 ページの 14 番ですが、「日本医学会臨床部
会利益相反委員会ならびに日本医学雑誌編集者会
議合同シンポジウム」を 7 月 15 日に開催して
います。合同シンポジウムの前に、15 ページの下
のほうをご覧になっていただきます。「日本医学雑誌
編集者組織委員会」を開いています。この委員
会は平成 20 年に発足していますが、委員長は東大
の北村 聖教授です。組織委員会のあとに編集者
会議と利益相反委員会の合同のシンポジウムを
開催しています。

次に 14 ページ、15 番の「日本医学会臨床部
会利益相反委員会」につきましては、繰り返すよ
うですが、協議事項でお話をいたします。

15 ページをご覧ください。「日本医学会社会
部会 Japan CDC (仮称) 創設に関する委員会」が
設立され、平成 21 年に発足しています。委員
長は最初、森本兼曩大阪体育大学副学長で
したが、辞退されまして、現在、山陽学園大
学副学長をされています。實成文彦先生に
委員長をお願いしています。第 3 回の委員
会を 4 月 28 日に、第 4 回の委員会を 6 月
25 日に開催して、今後 Japan CDC とし
ていろいろな活動を展開する予定です。

次に 16 ページの「日本専門医制審議会」、
これはだいぶ前に発足したのですが、最近少
し事情が変わってきています。この点につ
きましては門田先生が日本医学会の代表と
して専門医制評価・認定機構のいろい
ろな会議に参加しておられますので、
門田先生、簡単にご説明いただけますか。

門田日本医学会副会長 門田でございます。こ
の件につきましてご報告申し上げます。

18 の「日本専門医制審議会」は、日本専門
医制評価・認定機構の外部評価的な機能を
果たすということで発足しているもので
す。今期の新しいメンバーとして、ここ
に挙げています 10 名の先生方がこの審
議会を構成しているということではあり
ませんが、実は先ほど会長からもお話が
ありましたように、日本専門医制評価・認
定機構のほうで、専門医制度に対する考
え方が変化してきております。各学会
が認定するのが今までの通常の専門医
でしたけれども、「そろそろ専門医制度
そのものを見直す必要があるのではな
かろうか」ということ

で、昨年 5 月の日本専門医制評価・認
定機構の社員総会で、新しい体制に移
行する案が認められたということがあ
りました。実はそのことを検討する
会の名前が「第三者機関検討委員
会」、第三者機関という形で学会
とは少し離れた形の機構を作って
専門医を認定していくという方向
性であります。これはあくまで概
念ですので、その内容を検討す
るといのが、先ほど申しました
第三者機関検討委員会なるもの
で、それが今、スタートして、
検討が進んでいるということです。

そのメンバーも、日本専門医制
評価・認定機構の理事の方々に加
えて私たち日本医学会、日本医
師会の先生方、そのほかに日本
病院会の理事の方、またメディア
の関係者の方ということで、今
まさに学会から離れて、ある意
味ではこの日本専門医制審議
会のメンバーに非常に類似の
メンバーで内容が検討されてい
るということです。

今週の月曜日に行われた日本
専門医制評価・認定機構の社員
総会で、新しい全体的な構想が
大筋認められたとお話を伺って
いますので、さらにそれを煮詰
めて、できるだけ早いうちに
あり方をはっきりさせていき
たいという動きです。

そういった意味で、現時点では
日本専門医制審議会というもの
は一旦止まっているということ
ですが、今申しましたように
非常に類似の形のもので新し
い体制を検討中ということ
です。

以上です。

議長(高久日本医学会長) どうも
ありがとうございました。

それでは 17 ページ、19 番の
「日本医学会だより」はこの報
告のなかに載っていますので、
あとでご覧いただければと思
います。

次に「情報発信」ですが、ホ
ームページで 8 月 25 日に「『
ホメオパシー』への対応につ
いて」ということで、この報
告の 24、25 ページに載って
いますので、ご覧いただければ
と思います。

次に「事実を歪曲した朝日新聞
がんペプチドワクチン療法報
道」、これもやはり同じく、報
告の 27 ページに載っています
ので、ご覧になっていただ
ければと思います。

「肺がん治療薬イレッサ(の
訴訟にかかる和解約

告)に対する見解」は、私自身の個人の見解としてホームページに載せさせていただきましたが、29, 30 ページをご覧になっていただきたいと思ひます。

最後に、今年の2月に「日本医学会 医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」をホームページに掲載いたしました。

経緯を申し上げますと、2005年9月に日本医学会から各分科会に、遺伝医学関連10学会によって作られた「遺伝学的検査に関するガイドライン」(2003年)に従って実施することを要望いたしました。しかしながら、この2003年のガイドラインは、主に単一遺伝子の疾患を対象とした遺伝学的検査を中心に記載されていましたが、ご案内のように最近はがんやいろいろな疾患の患者に対しても遺伝子診断が行われるようになったものですから、新しい遺伝子診断のガイドラインを作る必要があるのではないかと考えまして、日本人類遺伝学会倫理審議委員会委員長である信州大学の福嶋義光教授にご依頼しました。

福嶋教授が中心となられまして17の関連する学会、すなわち日本遺伝子診療学会、家族性腫瘍学会などの学会と9名の有識者の方によって「日本医学会 医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」を作成し、ホームページに掲載いたしました。また各分科会にもお送りいたしまして、今、一部の分科会の先生から疑問点なども寄せられていますので、この点はまた福嶋委員長のほうにお知らせをして、必要に応じて改訂をしていきたいと考えていますので、よろしくご承りいただきたいと思ひます。

以上が報告事項で、ただ今から協議事項に移らせていただきたいと思ひます。

2011(平成23)年度日本医学会事業計画

議長(高久日本医学会長) 協議事項の最初が平成23年度事業計画です。お手元の1ページは4月開催の日本医学会総会について述べています。

日本医学会のシンポジウムとしては、6月に「炎症性腸疾患—最近の進歩—」を行うことが予定されています。

「公開フォーラム」も6月に「心の病—うつ病を中心として—」をこの会場で開く予定です。

「医学用語管理事業」は先ほどもありましたようにすべてWeb版にして、さらに和英のWeb版を作ることを計画しています。

「日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会」につきましては例年のとおり行う予定でありますし、「日本医学会加盟検討委員会」については、あとで協議事項として、この次にご議論いただきます。「日本医学会あり方委員会」につきましても、必要に応じて随時開催したいと考えています。

4ページの「日本医学会臨床部会会議」、「臨床部会運営委員会」、「専門医制に関する委員会」、「診療関連死に関する委員会」などを開催する予定です。

「診療関連死に関する委員会」は臨床部会のなかに作ったのですが、政権が変わって何となくはつきりしなくなったものですから、改めて日本医学会として民主党の方も呼び寄せて意見をお聞きし、今後の方向を決めていきたいと考えています。

「日本医学会利益相反会議」は従来のおり開くことを考えていますし、「Japan CDC」、「医学編集者会議」も従来のおりであります。

平成22年も行ってきましたが、23年もいくつかの学会から問題が提起されていまして、先ほど申しあげました画像診断を外国、特に中国に依頼して診療報酬を取っている問題でありますとか、日本人類遺伝学会からは遺伝子診断が商業化されていて、それが不正確であるという問題も提起されています。

あとでまた少し話が出ますが、「人体の不思議展」についてもいろいろな疑問が提起されていますので、随時、各学会の皆さん方とご相談しながら、日本医学会としての見解を表明していきたいと考えています。

2010(平成22)年度日本医学会 新規加盟学会

議長(高久日本医学会長) それでは次に平成22年度日本医学会加盟学会につきまして、久道副会長からお願いします。

久道副会長 日本医学会副会長の久道ですが、

日本医学会加盟検討委員会委員長をしていますのでお話しいたします。今回皆さんに提案をしてご了承を得たいことが2つあります。

1つは従来の方で加盟検討をした結果、2つの学会が委員会では認められ、それを1月12日の日本医学会協議会で了解を得たうえで、先ほどの幹事会でお諮りしましたので、さらにここで諮りするというものがあります。

それから、従来の加盟・検討の審査基準について、いろいろ疑問が出されていました。前回、前々回の評議員会でもいろいろご意見が出されまして、日本医学会のあり方そのものについてのご意見もありましたけれども、私どもの委員会の所掌はこの加盟検討に関わることでありますので、問題になっているところを委員会で検討し直し、最低限、今回評議員会に提案して修正をお認めいただいておくべき項目がありますので、それを提案するということです。

最初の提案ですが、皆さんのお手元に番号が付いていない資料があると思います。今回、平成22年度の加盟申請学会は1ページ目にありますように28の学会から申請がありました。今回の申請については、従来のやり方で委員会のメンバーは13名いますが、その方々がこのなかから5件の学会を選び、それに点数を付けて、その点数の合計ならびに平均値で特に上位にあるもの2件を選ぶ。従来は2~3件ということでありまして、実は、この選び方が問題ではないのかということで、実際には加入しても良さそうな学会があったとしても、数を制限した選別の形をしていたということがいろいろと問題となったわけです。

しかし、この平成22年度に限りますと、審査基準を訂正したうえで評議員会にかけているわけではありませんので、この28の申請学会については従来どおりの審査をいたしました。

その結果、2ページ目にありますように、1つは「日本プライマリ・ケア連合学会」で、この学会はここに記載してありますように、沿革や会員数、役員構成等々が書いてありまして、最終的には総合判断として、ここに記載してある理由で、分科会としてふさわしい学会といえるという判断を委

員会がいたしました。もう1つの学会は次のページの「日本手外科学会」で、これも議論した結果、ここに記載してあるような沿革、会員数、役員構成、活動性等々があり、総合判断として最後に書いてありますように、分科会としてふさわしい学会といえるという判断で、委員会としてはこの2件の学会を分科会として承認ということになりましたので、これも定例の評議員会でお認めいただければ幸いです。

もう1つの提案についてですが、資料10にありますように、従来の審査の手順については、日本医学会のホームページにも加盟・申請の項がありまして、「日本医学会加盟検討委員会報告(平成21年3月)」という形で載せてあります。そのなかには、加盟するにあたっては、こういう項目が基準になりますというところで、資料10にありますように、「1.はじめに」「2.常置の審査委員会による審査」云々と書いてあります。これは数ページに渡りますので省略していますが、肝心のところは4番目の「審査の手順」です。そのなかの常置委員会はどういう具体的な審査を行うかということが、実はこの委員会報告書には一切書いてありません。慣例によってこれまでの委員会のやり方をずっと続けていたわけですが、先ほどお話ししましたように、非常な矛盾、問題点があるとのことご指摘がありましたので、それに関するあり方委員会が10月末に行われて、「加盟に関して、詳細については検討委員会に任せるけれども、基本的には資格要件を満たす学会は日本医学会分科会として入れてもよいのではないか」という基本的な考えになりました。

ただ、加盟すべき要件が実は難物でして、ここにいろいろ書いてある「新規加盟の審査基準」のなかの1番目にある「独自性と必要性」、これを最優先として議論していたのですが、これがいちばん難しいのです。それをどうするかという細かいことについては、今後また詰める必要がありますが、とりあえず大きなところで、具体的な記載のない「委員会審査」のところを修正して、皆さんの了承を得ておこうというので提案したわけです。

②ですが「委員会審査」として、これは評価項

目ごとに審査、評価をいろいろと行いますが、さらに総合的判断として、13名の委員がいて、各委員にこの学会は加盟に「賛成」、「反対」、「判定保留」のいずれかを記述してもらうやり方にして、全委員の票の3/4以上が賛成の場合、あるいは1/3以下の場合、書面審査だけでも「加盟を認める」および「加盟を認めない」という決定をするやり方です。それ以外の票の場合は、委員会のなかで賛成意見、反対意見、いろいろ聞いたうえで議決することにさせていただいてはどうかというのが提案です。

具体的なことについては公告が5月15日ですので、それに間に合うように、もう一度4月に委員会を開催して細かいところを決めさせていただきます。そうしませんとまた1年遅れになり、来年の定例評議員会にお諮りしないと決められないということですので、今回は十分なまとめ方をしたわけではありませんが、非常に重要なところについてだけ皆さんのご了承を得たうえで、あとの細かいところは委員会にお任せいただきたいというのが私どものお願いと提案です。

以上、2つの件をご審議いただければありがたいと思います。

議長(高久日本医学会長) 久道先生からご報告がありました、ご了承いただけるでしょうか。

それでは、ご了承いただいたものといたします。

「日本医学会 医学研究のCOI マネージメントに関するガイドライン(案)」の件

議長(高久日本医学会長) 次に、協議事項のうち1つは「日本医学会 医学研究のCOI マネージメントに関するガイドライン(案)」の件です。お手元にガイドラインの案のダイジェスト版と本番の厚い版があると思います。このガイドライン(案)の最後に委員の方々のお名前が出ていますが、徳島大学の曾根三郎教授が中心になりました。慶應義塾大学の河上 裕教授、旭川医科大学の高後 裕教授、法律特許事務所の平井昭光先生、東京医科大学のPatrick Barron 教授といった方々が委員になられています。曾根教授の説明を代わりに読ませていただきます。

「日本医学会臨床部会は平成22年4月に利益相反委員会を立ち上げました。利益相反委員会は昨年5月17日に日本医学会108分科会を対象に、臨床研究にかかる利益相対対応の現状についてのアンケート調査を行いました。その結果、回答を得た107分科会のうち21%しか医学研究にかかるCOI指針を作成していないことから、『日本医学会 医学研究のCOI マネージメントに関するガイドライン(案)』の策定に着手し、7月15日開催の日本医学会利益相反委員会ならびに日本医学雑誌編集者会議の合同シンポジウムにおいてガイドライン原案を提示いたしました。

そのときに出された意見、質問等を踏まえまして改定案を作成し、11月15日開催の第2回利益相反委員会において内容や変更点についての議論を重ねたのちに、12月6日にガイドライン案バージョンXIIを108分科会に送付し意見を求めました。その結果105分科会から回答をいただき、若干の修正を行い、ガイドライン案バージョンXIIIを作成いたしました。

平成23年1月24日開催の第10回日本医学会臨床部会運営委員会には曾根三郎日本医学会臨床部会利益相反委員会委員長がオブザーバーとして出席し、ガイドライン案バージョンXIIIについて説明を行い、各委員から出された意見を反映して、ガイドライン案バージョンXIVを求めました。」

途中省略させていただきます。

「日本医学会各分科会の組織形態や運営方法の違い、また各分科会の置かれている特殊要因も想定されることから、このガイドラインは決して強制力を持つものではないことを申し添えます。日本医学会各分科会が置かれているさまざまな状況を踏まえ、医学研究にかかるCOIポリシーおよびそのルール、細則等をそれぞれ各分科会にて策定し、マネージメントしていくうえでの一助として、本ガイドライン案を活用いただけることを目指しています。」という、曾根教授のメッセージをお伝えします。

これについて何か、どなたかありますか。特にないようですが、何かあればまたあとでも結構で

すからお申し出いただきたいと思います。

その他の議事

議長(高久日本医学会長) 次にその他の議事ですが、第29回日本医学会総会の役員承認についてです。第29回日本医学会総会は京都での開催が決まっています、会期は2015(平成27)年、4月11~13日の3日間を予定しています。

会頭は先端医療振興財団理事長、京都大学名誉教授の井村裕夫先生、副会頭は総合科学技術会議議員、京都大学客員教授の本庶 佑先生、京都府立医科大学学長の山岸久一先生、大阪大学理事、副学長の門田守人先生、神戸大学大学院医学研究科長・医学部長の高井義美先生、職務指定として近畿医師会連合会長が決まっています。準備委員長は京都大学医学研究科教授の三嶋理晃先生ということ京都のほうから申し出られていますので、ご承諾いただきたいと思います。

先ほども少しご説明いたしました、森本先生が一身上の都合によって日本医学会幹事を辞任されまして、また「Japan CDC 創設に関する委員会」の委員長も辞任されましたので、山陽学園大学副学長の實成先生に委員長をお願いしました。

また、用語管理委員会につきましては開原先生のご逝去に伴い副委員長の脊山洋右先生に委員長をお願いいたしました。

「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」の件は、この件に関しまして各学会にお送りいたしましたところ、一部の学会から問題点を指摘されましたので、早速、福岡教授にご連絡して、その点について必要に応じてガイドラインを変更していきたいと考えています。

「人体の不思議展」につきましては、以前は日本医師会・日本医学会が後援していたのですが、その後援はだいぶ前に取りやめています。しかし、まだ依然として開かれており、今年は京都で開催されています。

この「人体の不思議展」には問題が多いということで、私と日本医師会の藤川常任理事、医師会の事務の方と3人で、京都の「人体の不思議展」を見てまいりました。やはりいろいろな問題がある

ので、この点につきましては23年度に各学会の方のご意見を伺いたいと考えています。

日本医学会評議員会にかかる報酬について、従来、出席の報酬と旅費を支給していましたが、日本医学会の活動の幅が広がったものですから、予算の関係上、旅費はお渡しいたしますが、出席の報酬は勘弁していただきたいということになりますので、ご了承いただきたいと思います。

以上、こちらからご報告、あるいは協議申し上げることは終わりましたが、何かありましたら、どうぞご自由にご質問なりご意見をいただければと思います。

はい、どうぞ。

高本評議員 日本心臓血管外科学会の理事長をやっています高本と申します。

高久先生は医師会の予算のことは言われなかったのですけれども、今回この予算を初めて見せていただきました。評議員会で初めて出たのではないかと思うのです。1億4,000万円という予算を日本医師会からいただいているということなのだろうと思います。

お聞きしましたら、日本医師会の予算は140億円ということですから、1億4,000万円というのはたかだか1%なのです。1%の補助金といいますが、そういうものをもらって運営しているわけですが、そのためにわれわれはわれわれの魂を医師会に売っているのではないかと、こういう懸念があるわけです。

たとえば矢崎先生、永井先生などは今、チーム医療のことをやっておられますし、私も多少関係していますけれども、一般の臨床においては、もう医師だけではやっていけないと、特定看護師の制度とか、フィジシャン・アシスタント制度のようなものが必要であると、このように訴えているわけです。医師会は基本的に開業医の先生方の利益を代表しているわけでありまして、これには反対するわけです。

診療報酬にしても、ここにおられるのはたぶん勤務医の方が多いと思いますが、これはもう立場が全然違っています。立場が全然違うわけですから、たかだか1億4,000万円、1%の補助金で、

魂を売ってしまうのはどうかと思います。

これぐらいなら、われわれひとりひとりが拠出するなり、あるいはここにおられる会員の会費を集めれば1億4,000万円ぐらい、あるいはもっと集められます。たった1%のことで魂を売ってしまうのは、本当によいのでしょうか。

私は「すぐに、ここで何かやれ」とは言いません。この次の回には新たな組織改革というものをしなければ、エジプトでもリビアでもいろいろなことが起こりましたが、同じことが起こる可能性もあります。ですから、ぜひこのへんの見通しについて、高久会長の今のご意見をお聞かせいただきたい。われわれは、本当に110ぐらいの学会ですけれども、医師会にわれわれの魂を売ってよいのかと考えます。

最初に医師会の先生がお話しされました。それは「お前らはわたしの手下だよ」ということの現れであるわけです。けれども、決して医師会は敵というわけではありません。一緒に協力して戦わなければいけないことももちろんあるわけではありますけれども、でも魂を売った状況でやるというのは、私はやはり良くないだろうと。お互いに同じ立場で、同等の立場で、医療の種々の問題に対処すべきではないかと思います。

高久会長のご意見を承りたいと思います。

議長(高久日本医学会長) 私は魂を売っているつもりは全くありません。ただ、日本医師会には定款というものがあまして、定款を変えるには非常に難しい問題があります。

医師会の定款のなかでいちばん問題になるのは「日本医師会に日本医学会を置く」という言葉になっている点です。

もう1つの問題は、「日本医学会長は学会の重要な会務については医師会長と協議し、了解を得る」ということがあります。そちらのほうは、今度公益法人になるときの定款ですんなりと変えてもらいまして、了解を取らなくて医学会長としては独自の発言をしても構わないということになりました。

ただ「日本医師会に日本医学会を置く」という

定款を変えることについて、弁護士の方と私は個人的に何回も十分に話をしたのですが、かなり難しいようです。

日本医師会の副会長ともいろいろ議論をしたこともあるのですが、医師のグループが分かるとい形は非常にまずいので、医師会が公益法人になるときに医学会として別な形を取るという問題とか、会費を別に取るのかという問題などは、ちょうど原中会長も1年経たれて十分お慣れになったと思うので、医学会の幹部と医師会の幹部の方々といろいろお話をしたいと思っています。

また、必要に応じて内科学会、外科学会の中心の方にもお集まりいただいて、仲間割れという形ではなくて、お互いに対等な立場で一緒に進んでいく形をとって、今でも原中会長はそうおっしゃっているのですが、それをもう少し明確にしていきたいと考えています。

それから、会費を集めるという問題と、事務所をどうするかという問題も当然出てくると思いますし、1億4,000万円のなかには事務所や事務の方の費用などは入っていませんので、そこらへんも考えなければならない。

高本先生も前から言われていましたので、たぶん本日もおっしゃるのではないかと思っていましたが、今後1年間かけて相談しながらやっていきたいと思っています。終戦後から65年続けてきたこの形を1年間で急に変えるかということはかなり難しいと思いますが、私は原中会長とは長い付き合いですので、腹を割ってゆっくり話をし、必要に応じて内科学会、外科学会などの主要な学会の先生と医師会の先生方と、少し時間をかけて話をしていきたいと考えています。

ただ、強調したいことは、私は決して医師会に魂を売っているつもりはありませんので、その点だけのご了承いただきたいと思います。

ほかにはどなたかありませんか。

それでは、これで終わらせていただきます。ありがとうございました。

午後4時2分散会